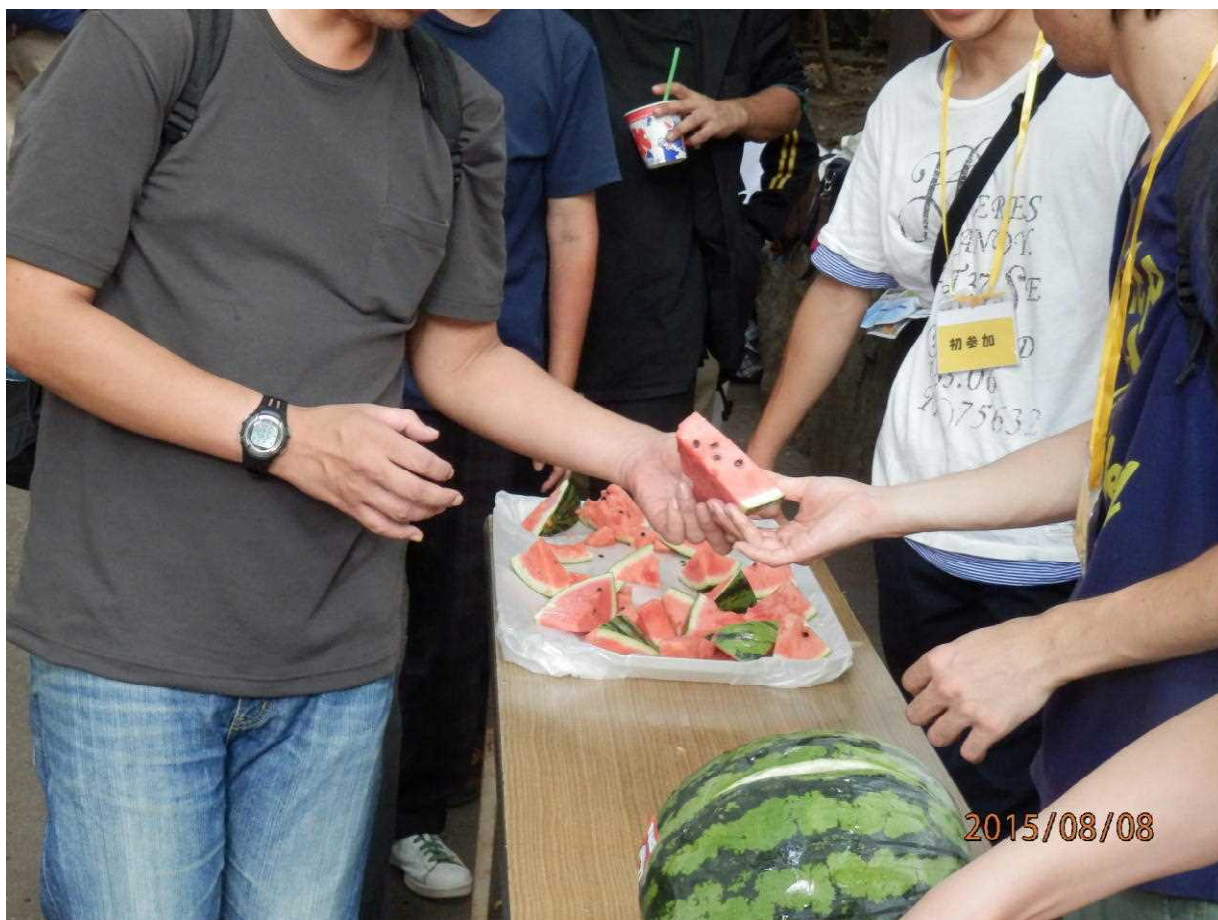


TENOHASI

てのはし

地球と隣のはっぴい空間・池袋

会報誌第32号 2015年12月20日発行



2015年8月8日 TENOHASI 夏祭りのスイカ

夏祭り報告号

TENOHASI の理念	2	経営者になる才能があったんだな	8
ソーシャルワーカーズオフィス & クリニックを立ち上げます	3	近くに居て遠く、遠くに居て近く	12
TENOHASI 夏祭り 2015	4	ある日の夜回り	14
大塚モスクの炊き出しは 「ジハード」!	6	寄付御礼	15
		活動紹介・ご支援のお願い	16

The Earth and Neighbor Of Happy Space Ikebukuro

TENOHASIの理念

2004年春

1. サポート

TENOHASI=地球と隣のはっぴい空間池袋は、「ホームレス」を含めた生活に困った方が、孤立せずに信頼関係を生きていけることのサポートを使命とします。

「ホームレス」とは、その方がその時にホームレス状態にあるという意味で使います。ただし、「ホームレス」状態に至るまで、また「ホームレス」状態での社会の関係性の維持を大切にします。

1, サポートの仕方

緊急一時支援の他、関係性を大事に当事者とよく話し合い互いの理解の上で状況や希望に応じた、私たちができる必要なサポートを丁寧に行います。

1, 安心の空間

社会的地位、経済状況、年齢、性別、健康状態などの条件に関わらず、人々が地域で安心して生活できる空間作りを目指します。

1, つながる

置かれた立場や状況、境遇など様々なちがいを当たり前のこととしてつながることを目指します。そのために現状を共有するための情報発信をしていきます。

1, 大切にしたいこと

ゆっくりなこと、非効率で無駄だと思えることを大切にします。

素朴なこと、個人の個性や特殊性ということ大切にします。

1, 池袋・地域

池袋という地域性を把握した上で、地域に根付いた、時と場に合った活動をこころがけます。



私たちの悩みは「路上脱出から地域で安定した生活を営むまでの支援には多くの手間暇がかかるのに、専従支援員の人件費はどこからも出ない」ということです。そのため、みなさまからの寄付と、いろいろな助成金で綱渡りの運営を続けているのが現状です。

もう一つの悩みが「無料の医療相談活動だけでは限界がある」ことです。ボランティア医師による医療相談は、炊き出しの場

たく差別的な扱いを受けたり、劣悪な貧困ビジネスの寮に入れられたりして、路上に戻ってしまう人が跡を絶ちませんでした。

そうなるとうまく病状は悪化して路上死の危険が高まります。そのあたりの事情を、世界の医療団の西岡誠医師はこう語っています。

「ホームレスの人は医療機関に行っても、ちゃんと診断・診療して貰えないことがあります。一つには、自分の症状や病歴をうまく医療者に伝えられないこ

療団ウェブサイト)

貧困と病気に苦しむ人に寄り添って質の高い医療を提供する医療機関が必要です。

その病院は総合病院である必要はありません。適切な見立てをして、必要ならば適切な病院へ紹介し、その後も継続的に相談できるクリニックがあればいいのです。

そこで、TENOHASIも参加している「東京プロジェクト

ト(路上生活状態にある障がい者支援プロジェクト)」の森川すいめい医師(TENOHASI)

師(TENOHASI)

SWOCは、2016年4月の開設を目指して準備を進めています。

「小さく産んで大きく育てる」をスローガンに、最初はごく小規模に、雇用するソーシャルワーカーも1名から始める予定です。

これが「大きく育った」ときには支援の形は大きく変わるでしょう。

2016年の展望 ソーシャルワーカーズオフィス／クリニック を立ち上げます！

では一回あたり約40人、毎週の夜回り活動では複数名の相談を受け、医療が必要な人には紹介状を発行し、生活保護を利用して病院に行けるよう支援をするという、なくてはならない活動です。

しかし、そのときにどの病院で受診するか・どんな宿泊施設を利用できるかの意思決定権は当人ではなく行政にあることが多いのです。偏見を持った医師が診察担当になった場合に冷

とも原因でしょう。先ほど話したように、ホームレスの方は精神疾患や知的障害を抱えることが多いためです。ただこの業界で18年やっていると、同業者の本音はある程度解ります。やはり「所詮ホームレスでしょ」ということなのです。身なりの整った、社会的地位のある人にはしない診療を平気でやってしま

う、やったとしても、どこからも苦情を受けない。診療レベルが下るゆえんです。」(世界の医

「大きく育った」ときには支援の形は大きく変わるでしょう。

TENOHASI夏祭り 2015

ご協力ありがとうございました

今年も、8月第2土曜日に東池袋中央公園で夏祭りを行いました。卒論のために炊き出し・夜回りに足繁く通ってくれた大学四年の平野多希さんがレポートします。



初レポートということで少し
どきどきしています。
先日、8月8日に、TENO
HASIの夏祭りが行われました。
お昼のそうめん配食から始まり、
慰霊祭、夏祭り、鍼灸マッサージや
衣料配布、医療・生活相談、そしてカレー配食と、
内容も充実し濃い一日を過ごす
ことができました。

私用のため慰霊祭からの参加
でしたが、お声がけするとほと
んどの方がそうめんを楽しませ
ていたようでした。

夜回りなどで配っているチラシ
を読んで、楽しみにしてきて
くださるんだなあと実感しまし
た。

慰霊祭では、今年一年間路上
生活等で亡くなった方を慰霊す
るため、キリスト教と仏教式(仏
教の中でも5つ以上の宗派のお
坊さんがいらっしやってくださ
いました)で厳かに執り行われま
した。熱心に祈られており、誰



かを思い起こす時間、お祈りす
る時間を持つことは本当に大事
なことであると思えました。一
同でそのような時間を持てたこ
とに感謝しつつ、これからも寄
り添う姿勢を持ち続けたいなあ
と感じていました。

慰霊祭が終わると、夏祭りとい
うことで、かき氷が用意され
ていました。

すでに行列を作っており、み
なさん楽しみにしてらっしゃる
ようです。

少し経って、スイカ割りも開
始。いろんな方が参加されてい
ましたが、みなさん命中心！
スイカを真っ二つにする人も

おり、はじけるしぶき(?)、そして切り分けたスイカの甘さと、夏のいい思い出になりました!

そしていつもの鍼灸や医療配布、相談なども行われました。私は直接支援に参加しており



ませんが、少しでも心や体が軽くなつて帰って行ってほしいなと思います。

そして夜は大塚モスクさん提供の本格カレーです。

ボランティアやモスクの方々が協力し手分けをして配食しました。

そしてその後はボランティア

も含め、その場にいる人全員がカレーを食べました!

スパイスがきいており、すごくおいしいです。

そして何よりも「食を共にする」という感覚が私は好きです。

皆でおなか一杯食べた後は、残ったご飯をお弁当にして配布したり、片づけたりして終了です。

一緒に思いを馳せたり、かき氷を食べたり、スイカを割ったり、話をしたり、ご飯を食べたり、いい日を過ごすことができました。

てのはしの方々をはじめ、本当に多くの人の協力や参加のもの

と為せたことなのだなあと実感しております。

また、私事になりますが、私は現在卒業論文でホームレス状態の方々について勉強しております。

最近顔を覚えていただき仲良くなつた人も増えてきました。そんな仲良くなつた方に逆に私が助けられましたことがありました。

炊出しのスプーンを渡すため列の最後尾で私ともう一人のボランティアで待機していたのですが、「ごはん食べた?」という話になり。

2人ともまだ食べていなかったのでお互いに「先にごはんどうぞ」と譲り合いに。

そんなやり取りを見て仲良くなつた方に「僕が列を見てますから、2人ともご飯食べてきてよ。長く来てるから大丈夫。」と言われ、安心してその場を任せてご飯を食べに行くということがあります。



大塚モスクのカレー炊き出し

ずっとこう!という話ではなく、純粹に人として関わり、そのやさしさに甘えた瞬間でした。

今後もお互いが信頼して関わりあえる場が増えていけばいいなと思います。

立教大学

平野多希

大塚モスクの炊き出しは「ジハード」!

イスラム教には「犠牲祭」というお祭りがあるそうです。富裕な人は牛や山羊などを生け贄に捧げ、その肉を家族友人と貧しい人で分かち合うという、まさしくイスラム教の慈悲の精神を体現したお祭りです。

ような感想を寄せられました。

今年の夏祭りも「大塚モスク

(日本イスラム文化センター・マシド大塚)」を中心とするムスリムの皆さんが、「ラマダン(断食月)明け」のお祭りの一環で本格カレー炊き出しをしてくださいました。

ほぼ、季節に1回ずつ続いている「モスク炊き出し」ですが、

昨年から新たにトルコ系のモスク「東京ジャーミー&トルコ文化センター」やマレーシアからの留学生なども参加してください、

ちよつと古い話になりますが、

昨年10月第2週の炊き出しはその「犠牲祭」の一環として行われました。

この日のメニューはお肉たっぷり、巨大鍋4杯分の本格カレー。

そこに参加された女性は次の



牛肉たっぷりカレー 美味!

「トルコ風チキン炊き込みご飯」
「牛肉たっぷりの本格カレー」
「ココナツミルクの薫り高いマレーシアカレー」
「バラエティに富んだメニューが振る舞われました。カレーだけでなくお菓子・チャイ・衣類なども。炊き出しに並ぶ方々も「今日はモスクのカレーだね」と楽しみにしていることがわかります。(一番楽しみにしているのは TENOHASI のスタッフという噂も)」



左端がハールーンさん

「イスラム諸国では当たり前、恵まれない隣人にお肉を手渡しする光景も日本ではなかなか見る機会がないため、今回の炊き出しは恵まれない方への配布以外に子供達が学ぶ機会になったと思われました。

是非この活動が全国的に行われれば良いなあと思いました。ノムスリムもメディアを通してでなく、直接イスラムを感じられる機会にもなることだと思います。」

(大塚モスクのホームページより転載・各回の様子もアップされていますのでご覧ください)

今年はISによる日本人拉致殺害事件があり、イスラム教IIテロというイメージが広がりました。

それに対して大塚モスクの事務局長ハールーンさん・モスク炊き出しの中心・・は次のように語られています。

「コーランを読んでみてください。慈悲という考え方に重きがおかれ、寛容さを大切にしています。私たちは目の前の誰かを助けることがとても大切だとい



2015年8月 TENOHASI 夏祭りのかき氷テント

う教えを大事にしています。だからこそ断言しますが、ISは決して「イスラム」ではありません。後藤さんのような平和のために活躍されてきた方が、なぜあれほど残虐に殺されなくてはいけないのか。私には彼らがなぜ『イスラム』を名乗るのがわかりません。『実は『ジハード』というのは、『努力する』という意味です。日本の方がよく使う「聖戦」というのは、コーランにも出てきません。何か打ち込み努力することをジハードというんです。つま

り、私たちが一生懸命、教育活動をするのもジハード。ジハードを「聖戦」と訳すのは、完全に誤訳です。自爆テロなんてものは、そもそもイスラムでは禁じられていますからね。そういうことをした人は地獄へ落ちます。ですから、「聖戦」というものはジハードではないんです」と述べられていました。



夏祭り・お昼のお楽しみ・かき氷

ムスリムの皆さんが大変な熱意を持って日本の路上生活者のための炊き出しに取り組んでくださっていることも「ジハード」ということがわかりました。「TENOHASIの炊き出しでイスラム教徒の皆さんがジハードをして下さっているんですよ」と言ったらみんなどういう反応をするでしょうか。



食後の楽しみ チャイと手作りお菓子

「もちろんそうだよね」とうなづけるだけの相互理解を作っていききたいと思います。

経営者になる才能があつたんだな

料理人&経営者↓孤立+認知症↓ゴミ屋敷↓ホームレス↓生活再建の物語

今回紹介するOさんは、75歳。話し好きの明るいおじいさんです。

私たちが支援している人のほとんどは、家も金もなくして池袋に流れ着いた人たちです。しかし、Oさんは池袋に家があつて預金も十分ありました。にもかかわらず路上生活になつて、私たちの支援を受けることになりました。なぜそんなことになつたのでしょうか？

生まれかい？ 満州のハルビン。親父は軍人だつた。奥さんがいたんだが、兵隊が入りする店にいた俺の母親と仲良くなつて、身ごもらせたんだな。それで俺が生まれた。俺の母さんは身体が弱かつたらしくて、俺

が物心つく前に死んじゃつた。生まれた年？昭和16年つてことになつてゐるが、もうちよつと前かもしれない。敗戦の時のことを俺がよく覚えてるけど、学校上がったら、同級生は全然覚えてなくて、おまえはおかしい、ホントは年上なんじゃないかつていうんだ。

敗戦で日本に帰つて、茨城で子ども時代を過ごした。高校も行ったんだが、2年行つたら面倒くさくなつちやつてよ、中退して池袋で店をやつていた親戚を頼つて上京したんだ。皇太子が結婚する2年くらい前だつたな。あの頃の池袋は、今のウナギ公園あたりにマーケットがたぐさんあつたよ。闇市。不良がたくさんいて、いい時計なんかしてると「お、いい時計だね。どこで買ったの。ちよつと貸してよ」つてもつてつちやうんだ。

それでどこかで売りはらつちやう。夜の北口のガードなんて女の人は危なくて通れなかつたよ。22歳の頃に、「冒険すべえ」つて知り合いの弟を誘つてフランスに行つたんだ。パリ。先に行つてた知り合いに頼んで、その日本料理屋を二人でやらせてもらった。二人して必死になつてやつたからさ。まんまと成功して人をたくさん使うようになった。まだ日本食が珍しい時代だつたからよかつたんだな。あつちやこつちやからお客が来て、おもしろかつたなあ。

そこに4年ちよつといたかな。それで帰つてきて、そのあとも仕事はいろいろやつたよ。だいたい飲食だね。日本そば屋とか和食レストランとか、中華そば屋とか。何でも冒険だから、「自分でやれるものはやつてやるよ」

つて。自分の店だつたり人様の店を任せたりしてたけど、景気もよかつたし、もうかつたよ。普通の人は働いて給料もらうだけだけど、俺はよ、それだけじゃ能がねえつて思うんだ。それで一生懸命考えて人が思いつかないようなことを思いつくんだ。社長が「Oさんよくそんなことを思いついたね」つて感心するけど、こつちはただ働いてるだけじゃなくて、「次にどんなことをしたら流行るだろうか」つて四六時中考えてるんだから。経営者になるような才能を持つてるんだな。お客にも恵まれたしね。

知り合いと共同でラーメン屋を始めたときは、3年で5店舗まで増やした。お客がいつも並んでたよ。行列ができるラーメン屋さん。近くにテレビ朝日があつて、その社員も入れ替わ

り立ち替わり来てさ。それで知

り合いになるとこんどは出前し

てくれて言うんだ。出前なん

かしたくねえんだけどよ、「店

に行く閑なんかねえんだからど

うしても頼む」って言うんだ。

「しょうがないよな。ちよっく

ら俺行ってくるわ」って自転車

で行って、テレビ局を自由に

入りしてた。あの頃が全盛期だ

ったな。銀座の歌舞伎座の斜め

前のビルに事務所があった。女

優の和泉雅子って知ってるか

い？その所有のビルだよ。ホン

トに面白かった。あの頃は。

いつごろかって？日航ジャンボ

機が墜落した頃だよ。え、もう

30年前かい。

家族？親父はだいぶ前に死んだ。

会う度に仕事が変わってるから

「どうしておまえはそんなにこ

ろころ仕事が変わるんだ」って

いうからさ、「何事も修行だ」

-5 100 30 295" data-label="Text">

って言ってやった。葬式に行っ

らさ。

60歳のとき、そのころは日本

そば屋を経営してたんだが、あ

るときから心臓がばくばくして

とても立っていられないように

なったんだ。こりやあ仕事でき

る状態じゃないなと思って、店

は後輩に譲って引退したんだ。

それから、それまでに貯めた

金を取り崩しながら生活したん

だよ。68歳の頃、心筋梗塞に

ならなかったらその金は今でも

残ってるはずだよ。あん時は辛

かった。文字通り生死の境をさ

まよったから。

Oさん支援記録

中村あずさ

2013年2月27日 水

夜回りで出会った方。

いけふくろうの階段ちかくにい

らしたOさん72歳。所持金わ

ずかにて池袋で野宿に至る(2

日めくらい?)。同行した森川

医師により軽い認知症との診断

を受ける。

池袋の賃貸マンションに住ん

でいたが、上階から水漏れのため

住めず、ビジネスホテル住ま

いをしていたところ、心臓発作

を起こし入院。そのうち、大家

さんも入院してしまい連絡が取

れなくなつた。再びホテル住ま

いをしていたが所持品(現金、

通帳、印鑑、身分証、保険証等

々々)をすべて失つたとのこと。

希望することは「お金を下ろせ

るようにして欲しい」「水漏れ

を放置した大家に裁判を起こし

-15 745 40 940" data-label="Text">

たい」。

優秀な料理人&経営者だったOさん。経済観念もしっかりしていて、60歳から75歳になった今年の初めまで貯金だけで生活ということです。きつとウン千万円は貯めていたのでしょう。しかし、70歳を過ぎて軽度の認知症を発症していたOさんは、あるとき、途方に暮れて池袋駅で座り込んでいて、TENOHASIの夜回りスタッフに声をかけられました。

今夜はビジネスホテルにお泊め

して、木曜日・金曜日そして今

日と対応します。

2月28日 木

朝、ホテルにお迎えに行き、法律相談の後閑さんと私とで家を確認。マンションは取り壊し予定で、他の居住者はみな転居したあとだった。鍵がないので部屋には入れず。不動産屋が連絡を取りたがっている旨張り紙がしてあったため、不動産屋を訪問。大家の連絡先を聞き、後閑さんから連絡。大家は「立ち退き請求裁判の準備中」とのこと。

地域包括支援センターに連絡してOさんの生活再建支援を要請したが「どうしたらいいかわからない」と対応をためらわれる。

身分証がないと通帳の再発行ができないので区役所にて住民カード再発行をこころみるが、会議が開かれ「居住実態がない」ということで断られてしまった。

そこで、鍵屋さんに来てもらって部屋の鍵を開けてもらい、身分を証明できる年金手帳や、裁判のために必要となる契約書を探すことにした（本人の談だとすぐ見つかるはず！ということだったので）。再び地域包括支援センターに連絡したところ、「家の搜索だけなら協力できる」ということだったのでケアマネさん2名に来ていただき部屋に

入った。

しかし部屋は、水浸しもひどいけど、そもそもゴミ屋敷状態で、搜索はほぼ不可能だった。

（ゴミ屋敷とは聞いていなかった。なので、マスクも手袋も用意しておらず、とんでもない目に遭った・・・後日談）

発見できたのは失効したパスポート、昭和の保険証などなど。Oさんは、わたしたちが探している間ずっと楽しそうに昔の話をしておられ作業に参加しなかったが、「そろそろあきらめて帰りましょう」となったとき、ごそごそと搜索をはじめて金のブレスレットをゲット。そのお金でホテルに宿泊。ケアマネさんは金曜日には動けないということ。

3月1日 金

翌日朝またホテルにお迎えに行き、見つけ出した書類で通帳再発行できないか頑張るが不可。そこで小川さん新川さんにバトナタッチして、今度は保険証の再発行にトライしてもらい、保険証をゲット。

それから銀行に向かい、保険証を見せて通帳の再発行を請求したところ「居住実態がないとこ

ろに送付するわけにはいかない」とのこと。お願いしたのだが、もらえなかった。そこで時間切れ。

残ったお金で週明けまでM荘に宿泊。

3月4日 月

今日またOさんをM荘までお迎えに行き、作戦会議。ケアマネさんに連絡するも「どうしたらいいかわからないと関わることはできない」というので、「自分もどうしたらいいかわからないので一緒に考えてほしい」とお願いし、直接、地域包括支援センターにOさんと行っちゃいました。

ケアマネさんが職員のみなさんと対応を考えてくれて「やっばりもう一度銀行に行きましよう！」と言ってくださり銀行に向かう。そこに小川さんが助っ人に来てくださり、自分は別のおばあちゃんの対応に回る。

結果、通帳の再発行がかなう！！預金は350万もあつた。しかし、通帳到着まで10日くらいかかるというので、それまでM荘で待機となりました。

今後、通院・書類の受け取り（局

での受け取りでなく、不在票が入ってたら取りに行つて受け取るうという作戦）・アパートを借りる・各種手続き等の支援が必要。まずは先に地域包括の人たちに入つていつてもらいたいと思えます。

地域包括は関わるのに二の足を踏んでいましたが、会うたびに少しずつ対応してくれるようになってきてるので直接会って繋げるのは大事だなあーと思えました。



この前はNHKが来たよ。認知症の取材だったさ。俺が料理人だったってんで、ここの台所で包丁さばきを見せてくれて言うから、まねごとをやってたよ。でもさ、顔だけは映さないでくれて言ったんだ。テレビに顔が出ちゃうと、昔世話に

○さんはもともと池袋の住民ですから、地域住民を支援する地域包括支援センターや社会福祉協議会も動いてくれて、大立ち回りの末、ようやく預金が下ろせるようになりました。そのお金で再び池袋にアパートを借りて、「地域で自立した一人暮らし」を復活させることができました。

もちろん、いまも心臓は弱っていて、近所のコンビニに行くのも一苦労ですが、介護ヘルパーと訪問看護を利用して、池袋で静かに暮らしています・・・

しゃべり出すと止まらな
いけれど・・・

いやー、あの人たちも閑ありそうで閑ねえんだよ。「たまにはおじさんが食事ごちそうするから」って言うても「今日はこれからドコドコ行くからダメです」って、向こうにヒマがないんだからどうしようもないよ。結局スーパー行って作り物の料理買って部屋で食べるとかそのくらい

なったヤツとか親戚とか見て、あいつあんなことしてるっていわれちゃうだろ。

あんたも取材？なんだよよく取材取材って、俺は有名人じゃないんだからさ。

最近の昼間は、医者行くとかの用事がなかったら、だいたいは身体休ませて、新聞読んだりさ、本読んだり、たまにテレビ見たり、そんなもんだね。

楽しみってねえ・・・誰かとどこかに言ったり、旨いもん食べに行ったりするのがあればいいけどさ、それがないからダメだね。

じゃあ、楽しみは訪問看護のおねえさんが来るくらいですか？

おしゃれな○さんのグッズ



最近「下流老人」が流行語となっているように、○さんのように一人暮らしをしてきた老人が、軽度の認知症になり、まわりの人が気づかないうちに老後の蓄えを浪費してしまったり、家をゴミ屋敷にしてしまつてホームレスになつてしまつたケースはこれからもどんどん増えていくでしょう。

そういう人は「奥さんに家事を任せきりにしていたけれど、奥さんに先立たれて・・・」という男性が多いのですが、○さんのように家事全般こなせる人でも、女性でも、認知症＋孤立Ⅱホームレス化という公式からは逃れられません。

しかし、ご本人の活力をていねいに引き出して、そこに寄り添う支援が行えれば、施設ではなく地域での生活を再建できることを○さんのケースは証明していると思います。

になるよ。

じゃあ、今度みんなで食べに行きましょう。○さんのおごりですね。

近くに居て遠く、 遠くに居て近く

生活応援班 小川芳範

支援の現場でお会いするのは、千差万別の人生を生きてこられた、それぞれに異なるユニークな個人ばかりです。でも、そんなユニークなお一人お一人と話をしている、「自分の現状はそうなるべくしてそうだった、言わば、必然の結果である」と口にされる方がこのほか多いことに驚かされます。自分の来し方を振り返って、それは自分の力ではどうすることもできなかった「定め」であったと考えるのは、一つには、だからそれでよかったのだという、自分の人生を肯定するための根拠をその考えが与えてくれるからなのかもしれません。でも、それと同時に、各人の「しようがない」の背景には、何をしたらどうにもならない、そんな絶望経験の繰り返し、言い換えるならば、「学習された無

力感」が横たわっていることも稀ではありません。そして、その人にとつて、そうした何によっても「どうにもならない」事どもは、しばしば、「どうしようもない自分」からの必然的帰結であるという確信をもって生きられています。例えば、あの人は小さい頃から酷い目に会ってきたから、人を信用できないのだというようなことが言われます。でもそうだとすれば、他人を信じることができないにしても、自分を信じることはできるはずで、す。ところが、それがまるで逆な場合があります。こんなダメな自分に付き合ってくれる人がこの世にいるはずがない。その人にとつてはそれが絶対の真理なのです。だから、自分への不信が取り払われない限りは、どんなに誠実な相手だろうと信じることはできません。絶望の運命論は自尊心、自己肯定感の低さあるいは欠如と表裏一体です。

最近、いろんな場面で「生きづらさ」という言葉を耳にしますが、これについて少なくとも二つのことを指摘できると思います。一つは、障がいの「スペクトラム(連続体)化」ということ。「障がい」、さらには、「病気」、

「疾患」といった語は、しばしばそれによって語られる事態、より正確には、その原因と想定されるものを実体化し、生物学的基盤へと帰するような思考法を招き寄せます。かくして、障がいは、あくまで、自分のうちに「それ」を内含するような特定個人(そしてその周囲の人々)にとつての「問題」であり、そうした不運な人たちは同情の対象でこそあれ、究極的には、「それ」をもたない健常者である自分分は障がいとは無関係である、という意識をもたらします。これに対して、「生きづらさ」とは、

程度の違いはあるにせよ、誰しもが経験し抱えるものであり、病気の概念にしばしば伴う特殊化、差別化、絶縁化を無効とします。そこに、健常者と障がい者の区別、健常者と病者の区別はありません。「生きづらさ」を生きる人がただいるばかりです。もう一つ、これと密接に関連することですが、「生きづらさ」はそれを生きる当事者の主観、内的経験と切り離すことができませぬ。客観化、外在化された障がい(diseases)や疾病が専門家によって語られ、それを生きる本人の内面が置き去りにされることも多い医療・福祉の現場において、これらの点はきわめて大きな意義をもつと思えます。

しかしながら、その一方で、支援に携わる者は、困っている人の生きづらさの軽減を図ろうとして、生きづらさの除去されるべき問題(ないし欠陥)、という見方を取り、その結果、その人がもつ「強み」を見失い、旧来の悪しき問題中心型アプローチへと逆行する危険性に対してつねに自覚的であればなりません。

第一に、生きづらさとは、それを生きる本人と、その人を取り巻く(人間関係を含む)環境との相互作用において生じるものであり、したがって、環境への考慮なしに理解することはできません。第二に、そしてこちらがとて重要だと思ふのですが、かりに生きづらさは、それを生きている本人に独特のものの方・感じ方、行動パターン(すなわち、その人の「性格」ないし「人格」と呼べるようなもの)によつて主にもたらされており、それを変えることが生きづらさの軽減には必要なのだと、生きづらさの原因となっている、そうした認知・行動パターンは、

それがかつて果たした「強み」でないし「機能」において見られるべきです。性格や人格というものは、いくらかは生得的な因子に影響されるでしょうが、そこへ生まれてくることを自ら選んだわけでもない生育環境そして養育者との対人関係の中に放り込まれた、いまだ言葉さえ話せない幼児が、まさしく生き残りを賭けて採用してきた、言ってみれば「戦略」の総和なのです。自らに手に入る乏しい資源を使つた、できるかぎりの環境への適応の試み。その集積が性格であり、人格であるのです。したが

つて、その人の置かれた現在の環境において、それがうまく機能せず、生きづらさをもたらしているのだとしても、それは本人にとつては自らの生きてきた過去に裏打ちされた、かけがえない大切な履歴書であり身分証明書であり、そして、自らに与えられた唯一の選択肢なのであることを、支援者はその個別性において理解すべきであり、敬意と評価をもって、その人の今ある姿として見つめるべきなのです。

そうしてみると、いわゆる問題、トラブルの発生は、それま

で頼ってきた適応プログラムの機能不全が表面化することであり、プログラム改訂の必要性の自覚へと本人を導く、千載一遇の機会と捉えることができるはずで。違ふ自分に変わりたい。変わらなくてはならない。そう彼（彼女）は感じています。でも、だからと言つて、どうしたら良いのか見当がつかない。「どうしようもない自分」という、絶対的な「真理」を前に、新しいやり方、別のやり方、新しい自分、別の自分を思い描くことはきわめて困難です。

何もかもがそうではかありえないのならば、そうありうるかもしれないという可能性の数々はその人には存在しません。そして、ありうるかもしれない自分の未来が存在しないとすれば、未来に向けて行動が動機づけられることもないでしょう。つまり、変化は起こりえません。したがつて、可能性の空間を開き、そうありうる未来の数々を思い描くお手伝いをするのが支援者にとつての一つの課題であると言えます。ではどうしたらよいのでしょうか？ 可能性を閉ざす運命論の鎖を断ち切るには、自分への信用が必要不可欠です。そ

して、自分への信用をもたらずの「自分はこんなことができる、あんなことができる」、そうした「自己効力感」の経験の繰り返しです。ゴミを分別して、決められた場所、曜日、時間に出す。近所のコンビニに立ち寄り、朝食用にパンを選ぶ。ふだん、一々口に出すことはなくとも、こんな日常の何気ない選択と行動の数々が私たちの「できる感」を構成し、自分への信用をもたらします。それらは自己の表現であるし、それらが集まって「私」があると言つてもいいでしょう。

ところで、そういう自己表現であるような行為にとつて、なくてはならないもの、それは「安心」です。幼い日のことを思い出してください。後ろを振り返ると、こちらを向いて笑いかけてくれる誰かがいる。そんな「安全基地」があるから、もう一歩先へ、冒険してみたくなる。条件無しに、あるがままに受け入れてくれる人、場所があるとき、安心が生まれ、自由な行為は生まれ

ます。自由な行為は自己効力感と自分への信用を、さらには可能性に開かれた未来を思い描くことを、そしてついには変化を生み出すはずで。私たちはそんな安心の場所を作り出すことを目指しています。



ある日の 夜回り

夜回り中のスタッフから「相談希望の人がいる」と連絡を受けて池袋駅の地下通路に向かった。段ボールを敷いて寝る用意をしていた小柄な男性が待っていた。

来年になれば年金がもらえるはずだけど、ほら、マイナンバーってヤツ、あれが10月に住民票の住所に届くんदार。俺は、ずっと前に住んでたところに住民票を置いたままなんだ。マイナンバーがないと年金がもらえないんじゃない。そのあたりわかる？

マイナンバーですか・・・まだそういう相談は受けたことがないんで調べてみないとわからないんですが・・・

でも、いま路上生活なら、まずは住むところを確保してた方

がいいんじゃないですかね。いまはどうやって生活されているんですか。

知り合いの紹介で日雇いとか。

週に1日か2日だけね。

あとは、並び（家電店のセールに早朝から並んで日当をもらう仕事）。この前なんか、仙台までいったよ。バスに乗って2泊3日。

そうですか、では東京都と23区でやっている自立支援センターというのを使ったことがありますか。

ああ、あるよ。でも2日で出ちゃった。

どうして？

いったらいきなり服を脱げっていうんだよ。何にも説明しないで、すっぽんぽんにされてよ。

後になって、シラミとか虫がないかどうかを調べるためだっけわかったけど、だったらその前に一言言えばいいことじゃないか。その後の対応もひどくてさ、人間扱いしてないよ。頭にきて「もういい、俺は出るから」といったら職員なんだったと思う？。「はい、終了！」

つてよ。何が「終了！」だよ。

それはひどいですね。まあ、そうじゃない職員もいるんですけど・・・生活保護は受けたことがありますか？

あるよ。〇〇区で。そしたら変な寮に入れられてさ、2段ベッドなんだよ。上で寝てて寝返り打つと、下のヤツが「うるさい。寝返り打つな」って言うんだ。そんなこと不可能だろ。もらえる金は1日800円だけ。そんなところにいるくらいなら野宿の方がまだよ。

そうですか・・・うちのシエルターが空いていれば個室だし、いいと思うんですけど、あいにく一杯なんですよね。

いや、とりあえずは野宿でいいんだ。それよりも年金。この前、年金事務所に行って聞いてみたんだ。そしたら、来年になったら年金がもらえるって言うんだ。

え、ご自分で年金事務所に行かれたんですか。

ああ、ジュンク堂の裏ね。もう2回いった。ちゃんと年金手帳もある

んだよ。ほら、これ。

65まで待てば満額もらえるんだけどなんだけど、来年からもらったらかなり減額されて、まあこづかい程度にしかならないだろうけどね。

じゃあ、私たちが調べるよりも年金事務所で聞いてもらった方が確実ですよ。それで、どうしても年金を出せないっていわれたら、その時にまた相談しましょう。毎週水曜日に回っていますから声かけて下さい。

すいませんね、そのときはよろしくお願いしますよ。

ずっと掛け金払ってきたんだから、年金もらって長生きして下さいね。

池袋年金事務所



資金・物資のカンパありがとうございました

TENOHASIは、みなさまに支えられています

敬称略・順不同

2015年8月～10月22日（物資）・11月4日（資金）

*事務局の都合で入力作業が遅れています。今回間に合わなかった方については次号に掲載致します。申し訳ありません。

個人情報保護のため、web版ではお名前を掲載していません

多くの
匿名のみなさま

147の個人・団体
のみなさま

はっぴいめーかー大募集

□TENOHASIの活動

- 炊き出し 毎月第2/第4土曜日 東池袋中央公園
- | | |
|---------------------|-------------|
| 鍼灸・マッサージ | 16:00~18:00 |
| 衣類配布 | 16:30~17:00 |
| 医療相談 生活相談 | 17:00~18:00 |
| ほっと友の会（お茶会・第4土曜日のみ） | 17:00~18:00 |
| 配食 | 18:00~18:30 |
- おにぎりと夜回り 毎週水曜日
- | | | |
|---------------|--------|--------|
| おにぎり配布と医療生活相談 | 21:30~ | 池袋駅前公園 |
| 夜回りと医療生活相談 | 21:45~ | 池袋駅と周辺 |
- 路上脱出と安定した地域生活への移行支援
東京プロジェクト参加団体（世界の医療団・ベテぶくろ
訪問看護センターkazoc・東京つくろいファンド）と連携して毎日

□ 活動資金のカンパをおねがいします！！

郵便振替 00190-8-259686 特定非営利活動法人TENOHASI
振込 ゆうちょ銀行 019(せうけい)支店 当座 259686 トクヒ) テノハシ

□ 物資カンパも大募集中！！

衣類（いまは冬・春物募集。スーツと女性ものは不要）・靴・毛布・カミソリなど
食材（缶詰・レトルト食品など。米は募集停止中）

【送り先】〒177-0045 練馬区石神井台6-1-28 清野賢司 TEL090-1611-1970
（夜間指定でお願いします）

お問い合わせは

メール：TENOHASIのホームページの「お問い合わせ」から

電話：090-1611-1970（事務局長 清野賢司 平日は18時以降）

特定非営利活動法人TENOHASI

会報第32号

2015/12/20発行

- ホームページ <http://tenohasi.org/>
□ メール tenohasi@yahoo.co.jp

発送元

〒177-0045

練馬区石神井台6-1-28 清野方

NPO法人TENOHASI事務局

TEL 090-1611-1970

（事務局長 清野賢司）

